

コミュニティ・スクールだより

第38号

名張市教育委員会事務局発行
令和5（2023）年 5月10日

充実したコミュニティ・スクールの 推進に向けて！



5月8日から新型コロナウイルス感染症の法律上の位置づけが2類相当から5類になり、学校生活にも少しずつ変化が見られます。コミュニティ・スクール（以下、CS）の活動にも、コロナ禍以前の取組内容を参考に、積極的に取り組もうとする様子が感じられます。

今回は、「当事者意識」をはじめとして、充実したCSを推進するにあたり、大切にしたいことや地域学校協働活動についてまとめています。ぜひ、ご覧ください。

【当事者意識の醸成にむけて】



子どもに関わる全ての人々が「当事者意識」を持つことの大切さについては、「コミュニティ・スクールだより」（以下、CSだより）第37号でもお伝えしました。CSに関わる取組を進める上で「解決すべき課題は何なのか」を共有した上で、解決に向けて**共に知恵を絞り考え合うことが大切**です。また、取組を進めるにあたって、**何のために企画されているのか**を一人ひとりが理解することも大切になります。

そのためには、設定された会議だけではなく、常日頃からの何気ない会話を含めて、**コミュニケーションの機会をしっかりと持つことが、何より重要**です。

【明確で具体的な方向性を示す】



学校運営協議会（以下、協議会）では「学校経営計画」の承認のほか、子どもたちに関わる取組について、多くの協議がなされます。その際、学校の課題や目指す子どもの姿等について、**具体的に伝えることがポイント**です。例えば「いきいきとした子ども」を目指そうとしているのであれば、どのような姿が「いきいき」した姿

なのか、具体的なイメージを話し合い、委員同士で共有することが大切です。協議会の開催時間は限られますので、資料の事前配付やスライドを使った説明等、事前準備を着実に進めておくと、より理解が深まります。

【思いが通い合う協議会を目指して】

市内の複数の学校で、協議会にできるだけ多くの教員が参加できるように、開催時期や開始時刻を工夫する動きが見られることは、以前お伝えしたところです。複数回実施される協議会の内、いずれか1回でも、行事等の状況を考慮して夏季休業中に開催したり、開始時刻を放課後に設定したりすることで、より多くの教員が参加できるようになります。このような工夫をすることで、協議会委員と教員とが、顔が見える関係となり、良い結果が期待されます。

＜期待されること＞

- ・教員との距離感が近くなり、情報共有がしやすくなる。
- ・何気ない場面で見せる子どもたちの様子など、普段伝えきれない子どもたちの細かな様子や地域の者として感じることを直接伝える事ができる。
- ・日頃、直接言葉を交わすことが少ない地域の方と話すことで、子どもたちへの思いを共有することができる。
- ・協議会委員の方に感謝の思いを直接伝えることができる。



【CSと地域学校協働活動】



協議会を設置している学校のことをCSといいますが、CSが将来的に目指す姿とは何でしょうか？ 現在、地域社会や学校において、多くの課題があります。その多くは、地域や学校だけでは解決が困難なものです。子どもたちや地域の輝く未来を創るためには、「社会総掛かり」

での対応、学校・家庭・地域による一体的な取組が必要ですが、その有効な仕組みの一つがCSです。合わせて、この「社会総掛かり」での対応の一つであり、学校と地域が一体となって子どもたちの成長を支えていく仕組みが、**地域学校協働活動**です。この地域学校協働活動についてはCSだより第35・36号でお知らせしましたが、CSと**地域学校協働活動**は車の両輪のように、相互に関わり支え合いながら、子どもたちの成長を支えていく仕組みです。市内全小中学校がCSとなって、本年11月で丸3年となります。昨年度には、CSカレンダーのほか、上記のような、新たな形での協議会の実施など、より充実したCSを目指して、新たな取組が進められています。次号では、このCSが創設された経緯や目的を改めて取り上げ確認することで、より充実した取組へつなげていきたいと思っております。

YouTube配信延長中



去る2月10日に開催された「第2回 小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会」の様子をYouTubeを通じて、限定配信していますが、**期間を延長して配信を継続**しています。**CSの必要性やその魅力、大切にしたい点**など、文部科学省元CSマイスターの木本（このもと）さんが熱く語られています。**職員研修でも活用**していただける内容です。ぜひ、ご活用ください。